

社会科指導計画（第三次）

令和2年2月発行

社会科指導計画（第三次）令和2年2月発行

東京都小学校社会科研究会

東京都小学校社会科研究会

目次

指導計画の作成にあたって	会長 吉村 潔	1
新しい社会科授業の充実に向けて	委員長 吉藤玲子	2
第3学年年間指導計画		5
第3学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
第4学年年間指導計画		31
第4学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
第5学年年間指導計画		75
第5学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
第6学年年間指導計画		121
第6学年の指導のポイント		
単元ごとの展開		
指導計画執筆者一覧		166

都小社研 社会科指導計画（第三次）を発行します。

東京都小学校社会科研究会会長 吉 村 潔

学習指導要領が改訂される度に、都小社研では全国に先駆けてそれに基づく社会科指導計画を発行してきました。今回の改訂では、平成 29 年 3 月の告示を受け、翌月の平成 29 年の 4 月には都小社研のプロジェクトチームとして「指導計画作成委員会」を立ち上げ、準備を進めました。実質的には新学習指導要領解説が出された 7 月以降の約半年で精力的に作業を進めて作成し、平成 30 年の 2 月に「社会科指導計画（第一次）」を配布しました。

新学習指導要領への移行期 1 年目となる翌平成 30 年度には、社会科指導計画（第一次）を活用し、特に新しく加わった内容や、現行学習指導要領から扱い方に変更があった内容を中心に年 8 回の研究授業を行いました。数回の事前検討会を経ての授業やその後の熱い協議会、講師の先生方からの助言により、各学年の目標や内容の意味、新学習指導要領の目指す授業改善のキーワードとなっている「主体的・対話的で深い学び」の学習の進め方が少しずつ見えてきました。このような研究過程を経て作成された「社会科指導計画（第二次）」（平成 31 年 2 月配布）は、社会科を研究している先生に限らず、多くの先生方が新しい考え方に基づく実践がしやすくなるように、いくつかの単元で学習展開をイメージできる「資料ページ」を加えました。そして、選択して学ぶ内容の指導計画を増やし、指導計画の一部見直しや追加も行いました。

そして、新学習指導要領の全面実施の前年度となる今年度は、国立教育政策研究所より示された学習評価に関する参考資料等を踏まえて「社会科指導計画（第二次）」を修正し、事例や参考資料もさらに充実させた「社会科指導計画（第三次）」を作成しました。なお、指導計画における評価規準の設定の仕方については、子どもの主体的な学びを保障する観点から来年度以降の実践の中で検討することとしました。

都小社研が、新学習指導要領の告示後、三回に渡って指導計画の作成、修正に取り組んできたことには二つの理由があります。一つは、学習指導要領の改訂後、全国に先駆けて指導計画を作成することを都小社研の使命と強く自覚しているからです。二つは、実際に指導計画をつくり実践することを繰り返すことで、はじめて新学習指導要領の趣旨を理解できると考えたからです。私たち教師は学者ではありませんので、計画と実践で授業改善を進めなければなりません。多くの時間を費やす作業でしたが、この過程を経たことで、関わった先生方の授業力を伸ばすことにもつながったと感じています。各市区町村や学校におかれましては、この指導計画を参考に児童や学校の実態に合わせた指導計画をつくり、児童が課題を追究したり解決したりする活動を充実させながら社会の形成者として必要な資質・能力を育ていける社会科学習の準備を進めていただければ幸いです。

結びに、本指導計画の作成に当たって多くのご指導をいただきました国士舘大学教授の澤井陽介先生をはじめ、研究授業でご指導をいただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。また、作成委員会の中でリーダーシップを発揮して委員を導いてくださった担当副会長（委員長）、調査研究部長・副部長、作成委員会担当校長、各学年部会作成委員のメンバーの多大なる尽力にも重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

本指導計画の活用にあたって

委員長 吉藤 玲子

平成30年に東京都小学校社会科研究会は『社会科指導計画（第一次）』を全国に先がけて発刊しました。その後、資料ページ等を加え修正した指導計画を『社会科指導計画（第二次）』とし発刊、さらに本年度は、6月、11月に国立教育政策研究所より示された新学習指導要領に基づく学習評価に関する参考資料を基に検討し、目標や評価規準の示し方を改訂したり、事例選択のある内容に関する小単元の指導計画を増やしたりして『社会科指導計画（第三次）』を発刊しました。このように東京都小学校社会科研究会では、新学習指導要領実施にあたって、活用できるよりよい指導計画を目指し、検討を重ねています。特に4年生においては、令和2年度に全面改訂で発刊される『わたしたちの東京都』の副読本と合わせて活用することができます。本指導計画は、社会科の授業改善が進めやすくなるように作成した基本プランです。地域や児童の実態に合わせて各校のさらなる詳細な指導計画を作成することをお願いいたします。

1) 各学年指導計画作成のポイントについて

ここでは、各学年の目標と改訂のポイントについて、今回の改訂で言われている生きる力に必要な三つの資質・能力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の視点でまとめています。

- 社会的事象の見方・考え方を働かせながら育成を目指す資質・能力を明確化しています。
- 内容においては、学習指導要領の内容がどのように変わったか明記しています。
- 単元配列案を学年の合計時数に合わせて作成しました。この案をベースにして各地域や学校で組み立ててください。
- 新学習指導要領の内容ごとの「着目すること」「考えること」「理解すること」を整理してあります。
- 授業を組み立てる上で指導するポイントをまとめています。
- 本指導計画を基に例えば、3年生においては生活科とのつながりを重視したり、警察・消防のどちらかを重点化したりするなど、学校や地域にあったカリキュラム・マネジメントを行ってください。

2) 各小単元について

新学習指導要領では、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を展開できるように「問い」が重視されています。各学年の内容のイに書かれている「着目すること」に基づいて、児童にもたせたい主な「問い」を設定しています。

1 目標と評価規準（案）について

育成を目指す資質・能力を統一的に育むことを意図して、目標を一文表記としました。観点別評価規準も改訂し、いつ、どの観点で評価するのかを指導計画に明記しました。

1 単元名 水害からくらしを守る 配当 2時間 内容 (3)アの(ア)及び(イ)の(ア)

1 単元名と観点別評価規準

(1) 目標

①自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、関わり調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、水害から人々を守る活動を探し、その働きを考え、実践することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な働きをしていて、今後想定される災害に対し、様々な働きをしようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して関わり調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して関わり調査をしたり、災害から人々を守る活動を考え、その働きを考え、表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、学習を進めたりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②関わり調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、年表などは、自然災害に対し、様々な働きをして対応して来たことや、今後想定される災害に対し、様々な働きをしていることを理解している。	②比較・調べたり、総合などで災害から人々を守る活動の働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を追究・判断したりして、適切に表現している。	②よりよい社会を考え、学習したことを基に社会への関わり方を追究・判断しようとしている。

2 評価規準の内容に当たって

(1) 学習指導要領との関係

①本単元は、内容(3)の「自然災害から人々を守る活動」に関する内容で構成した単元である。事例としては、水害を中心に取上げている。

②内容の取扱いに示された「地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちができることなどを考えたり、追究・判断したりできるように配慮することについては、「い・わす」段階で予備知識の整理やその内容を具体的に知り、それらを生かして実践するためにできるように配慮している。

(2) 教材や資料の工夫

①導入時に東京都において過去に発生した自然災害の年表や地図等を活用して調べることを通して、社会的な見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、様々な自然災害が繰り返り起こっていることに気付かせ、その対策について関心を高め、主体的に追究できるようにする。

②「調べる」段階において、前次授業や地域の自主防災組織の方、区役所や強者の防災担当の方などの協力を教材として取り上げる。調べる機会を多くしながら自主探究を促すことにより、社会的な見方・考え方(事象や人々の相互関係)を働かせながら自然災害から人々を守る活動について、実感的に関わり考えたりできるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①「つかむ」段階において年表を用いて東京都における災害発生状況を時間の経過から確認した後に、白地図に被害地をプロットし、空間的な広がりから捉える。そして、繰り返し起こっている水害に焦点化して学習問題をつくり、問題意識をもって主体的に追究できるようにする。

②「調べる」「まとめる」段階において、調べた事実を「水防の手引き」にまとめいき、最後に一冊の本を作成する。また、調べたことと問題意識に基づき活動を取り入れることにより、関係機関相互の協力や、その働きについて、自分とのつながりを意識しながら考えられるようにする。また、それを基に説明し合ったり意見を交換し合ったりするなどの対話的な学習を通して、自分の考えを深められるようにする。

3 単元の学習計画 (12時間以内)

過程	ねらい	主な問い(●)と主な学習活動(○)	教師の指導・支援
①	①新井における過去の自然災害について調べ、災害対策について関心を高める。	●私たちの実社会では、どのような自然災害が起こってきたのだろうか。 ○年表や写真資料から、東京都内の自然災害の様子を調べて、気付いたことを話し合い、振り返る。	□東京府には、様々な自然災害が起こっていること、特に水害による被害が多いことを理解できるようにする。 ○東京府の自然災害年表
②	②水害からくらしを守るために、水害から人々を守る活動について、資料を活用して調べる。	●水害から人々を守るために、水害から人々を守る活動について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	□関係機関の連携して被害にあったことを被害者目線の立場から、理解する。 ○水防の手引き
③	③水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
④	④水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑤	⑤水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑥	⑥水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑦	⑦水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑧	⑧水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑨	⑨水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑩	⑩水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑪	⑪水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。
⑫	⑫水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。 ●水害被害の被害の状況や被害の状況について、資料を活用して調べる。	○自然災害発生と水害被害のグラフのグラフを比べ、疑問をもてるようにする。

4

2 教材や指導の工夫について

取り上げる事例や教材のよさ、白地図、資料等の活用について示しました。小学校社会科では、社会的な事象を「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の」相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることを「社会的な事象の見方・考え方」と整理しています。これは、社会的な事象の特色や意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の視点や方法になります。この見方・考え方派を働かせるための学習展開や活動、指導の工夫を示しています。

3 学習過程について

学習過程を「つかむ」「調べる」「まとめる」として学習を進めるようにしています。現代社会に関する(公民的な)内容を中心に、今後の社会生活への関わり方をより深く考える過程として「い・わす」を設けている小単元もあります。

また今回の改訂では、「主体的に学習に取り組む態度」として、自らの学習を振り返り調整する力等も含まれ、評価規準に「学習を振り返ったり見直したりして」という学習過程を取り入れるように示されています。そのためには、問題解決に向け、学習問題や学習計画に則して、自らの学習状況を確認したり、さらに調べたいことを考えたりする自己調整力や粘り強い取組を行おうとする場面の設定が必要となります。しかし、今回の改訂版では、そこまで明確には指導計画に記すことはできませんでした。今後検討を重ね、指導計画にも盛り込んでいく予定です。学習を振り返ったり見直したりする場面は、すべての小単元に設定されるとは限りません。例えば、3年生「市や区の様子が変わり」において暮らしがどのように変化してきたか調べる場面、4年生「水害からくらしを守る」において問題解決に関わる人々の聞き取り調査を広げて調べてみたいと検討する場面や5年生

の産業学習において、今はこうであるが、これからどうなるか等時間軸を基に考えていく場面などで設定できるのではないかと考えています。

4 「問い」について

問題解決的な学習を通して、子供が単元の目標を達成できるようにするためには、「単元目標」「学習問題」「単元末での予想される子供の姿」とのつながりを明確にして計画的に指導する必要があります。本指導計画ではこれらを1ページに整理し、〔まとめる〕段階で理解することの概念をイメージできるようにしています。参考にしてそれぞれの授業における子供の発言を大事にして、進めてください。

3) 資料ページについて

2

第1時の資料 (つかむ)

◆私たちの東京都では、どのような自然災害が起ってきたのだろう。
時間的な経過と、空間的な広がりに着目する。

【指導上の留意点】
東京都における災害の年表を用いて、災害について調べる。約100年間に大雨、台風、火山噴火、地震など様々な災害が起ってきたことを捉えられるようにする。そして、発生源を東京都の各地図にプロットし、空間的な広がりからも捉えられるようにする。

年	災害名	主な被災施設	被害者数
1923	関東大震災	関東地方	約105,000人
1847	カマクラ川氾濫	東武池袋線	17,811人
1854	よつね川氾濫	金沢	12,000人
1859	伊勢湾台風	金沢	59,989人
1872	台風	金沢	447人
1892	伊豆半島噴火	伊豆半島	0人
1992	長門川	山梨県	117人
2000	三島噴火	伊豆半島	1人
2004	台風23号	金沢	88人
2011	東日本大震災	東日本	21,639人
2013	大震災	東京都	29人
2013	大震災	伊豆半島	40人

出典：東京都建設局HP「砂正寺川の氾濫による被害」

第3時の資料 (つかむ)

◆水害の被害は、どのように変わっているのだろう。
（参考：東京都建設局HP「過去の水害記録～浸水実態編～」）

資料 東京都の大雨の回数
資料 東京都の浸水被害件数

大雨の回数が少しずつ増えているよ。
そうすると、浸水被害も増えているのではないかな。
でも、浸水被害は年々減っている。
どうして雨がたくさん降っているのに、水害は減っているのだろうか。

【指導上の留意点】
大雨発生率のグラフから、年々大雨が増えていることを共通理解した上で、浸水被害のグラフを提示して比べ、そこで大雨は増えているのに被害が減っているのはなぜなのか疑問を集約して学習問題をつくる。

【学習問題】
水害からくらしを守るために、人々はどのような取り組みをしているのだろうか。

第8時の資料 (つなぐ)

◆東京都と杉並区では、水害が起きたときに、どのような備えをしているのだろうか。
資料 水害に備える都や区の出張

消防団の活動
出典：杉並区消防団HP
～地域の消防団や防衛隊による活動記録～

消防団の活動
出典：杉並区消防団HP
～土のうの備え～

協力して会議や訓練を行っている姿について、人々の相互関係に着目して捉える。

第10時の資料 (まとめる)

◆いろいろな人々の協力で初めて自分たちのくらしが成り立つ。
○人々の協力
○自治体の役割
○考えたこと

○考えたこと
学習問題に対する自分の考えを「シミュレーション」の場面にまとめ、それをもとに話し合うことでそれだけ考えをより深められるよ。

【指導上の留意点】
学習問題に対する自分の考えを「シミュレーション」の場面にまとめ、それをもとに話し合うことでそれだけ考えをより深められるよ。

第12時の資料 (いかな)

◆自分たちにはどのようなことができるだろうか。
資料 都市型水害の様子

都会でも水害にありがあるんだ。
大雨のときは、すぐに情報を得て、避難に備えよう。

【指導上の留意点】
水害が起こっても安全に避難できるように普段からどのような備えをしておけばよいか。大雨のときは、どのような行動をとればいいのか、今までの学習を想起させ、考える。

1 学習過程と「問い」について

指導計画の中の主な学習過程についてまとめています。その時間の「問い」に迫るための資料や指導上の留意点も示しています。

2 指導上の留意点について

どのようなことを重点的に児童に捉えさせたらよいか、白地図等の使い方、学習活動、学習問題への迫り方などを示しています。

3 着目する点について

「社会的な見方・考え方」を働かせることができるように、児童が着目する点について明記しました。示したような点に着目して授業を進めることで、より主体的な学習に取り組むことができると考えています。

4 児童の発言について

それぞれの時間に予想される児童の発言を示しました。児童からこのような気づきが出てくるように具体的に教師の発問や支援を工夫していく必要があります。

第3学年

年間指導計画

第3学年の指導計画作成のポイント

1 目標と改訂のポイント

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <知識及び技能>
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、の解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。 <学びに向かう力、人間性等>

これまで「第3学年及び第4学年」というように2学年を一括りとされていた目標及び内容が、系統的・段階的に再整理され、「第3学年」「第4学年」と分けて示された。

(1) <知識及び技能>の改訂のポイント

- ・第3学年で取り上げる「地域」の範囲が「自分たちが生活している市区町村」と明示された。
- ・「人々の生活との関連」を考えることを通して、「地域における社会生活」について理解することが示された。
- ・「観察、調査」をまとめて「調査活動」とし、「地図帳」の活用が新たに示された。

(2) <思考力、判断力、表現力等>の改訂のポイント

- ・第3学年にも「社会的事象の意味を考える力」「社会の関わり方を選択・判断する力」が新たに示された。
- ・「考えたこと」に加え、「選択・判断したしたこと」を文章で記述したり資料などを用いて説明したり、話し合ったりする力を養うよう示された。

(3) <学びに向かう力、人間性等>の改訂のポイント

- ・「主体的に学習の問題を解決しようとする態度」「学習したことを社会生活に生かそうとする態度」が示された。
- ・「地域社会に対する誇りと愛情」「地域社会の一員としての自覚」は学習活動を通して考えたり理解したりしたことを基に涵養されるものであることが示された。

2 内容の改訂ポイントと単元配列案

- 内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(1)のA
- 内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(2)のA、イ
- 内容(3)「地域の安全を守る働き」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(4)のA、イ
- 内容(4)「市の様子の移り変わり」 ← 旧第3学年及び第4学年内容(5)のAを変更

*内容(4)「市の様子の移り変わり」は、「昔の道具、それを使っていたころの暮らしの様子」を改めたもので、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具を時期による違いに着目して調べるよう示された。

★単元配列案

*第3学年は「自分たちが生活している市区町村」を学習対象として取り上げる。

合計時数 70時間

学習指導要領の内容		小単元名	配当時数
(1)	身近な地域や市区町村の様子	わたしたちの〇〇市(区町村)のようす	16時
(2)	地域に見られる生産や販売の仕事	〇〇市(区町村)の農家(工場)の仕事 *農家と工場などの中から選択	10時
		わたしたちのくらしとお店の仕事	11時
(3)	地域の安全を守る働き	火事から地いきの安全を守る	9時
		事ここから地いきの安全を守る	7時
(4)	市の様子の移り変わり	〇〇市(区町村)のうつりかわり	17時

3 学習指導要領の内容構成及び内容の取扱い

	内容構成			内容の取扱い
	着目すること	考えること	理解すること	
内容(1)	都内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布など	身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考える。	身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の導入で扱う。 ・「自分たちの市」に重点を置くように配慮する。 ・「白地図などにまとめる」際に、地図帳を参照し、方位や地図記号について扱う。
内容(2)	仕事の種類や産地の分布、仕事の工程など。	生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考える。	生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりを持って行われていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・農家、工場などの中から選択して取り上げる。
	消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなど	販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考える。	販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・商店を取り上げ、「他地域や外国との関わり」を扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにする。 ・またその際には、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮する。
内容(3)	施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応など	関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考える。	消防署や警察署など関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処していることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災と事故はいずれも取り上げる。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫する。 ・法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮する。
内容(4)	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなど	市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考える。	市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「年表などにまとめる」際には、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げる。 ・「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げる。その際、租税の役割に触れる。 ・「人口」を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮する。

4 各内容のポイント

- (1) 内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」では、「自分たちの市」に重点を置いた効果的な指導を行うように計画することが求められている。また、「市役所など主な公共施設の場所と働き」を扱う際は、公共施設の運営や災害時の避難場所の指定を市役所が行っていることに触れることが大切である。
- (2) 内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」では、生産は「身近な地域や市の人々の農作物や工業製品などを生産する仕事」を対象としている。販売は、消費者・販売者双方の立場から調べ、販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫していることを指導することが求められている。
- (3) 内容(3)「地域の安全を守る働き」では、緊急時に対処する体制をとっていることについては「火災」に重点を置き、防止に努めていることについては「事故」に重点を置くなど、取り上げ方に軽重を付け、効果的に指導することが大切である。また、地域社会の一員として自分たちにも協力できることや自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、話し合うことなどが大切である。
- (4) 内容(4)「市の様子の移り変わり」では、内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」にはなかった「人口」「生活の道具」にも着目して交通、公共施設、土地利用などと関連付け、「市や人々の生活の様子」の変化を考えさせ、年表などにまとめる活動が考えられる。その際、内容(1)の学習で作成した地図などの活用も考えられる。また、これからの市の発展、将来について考えたり討論したりすることができるよう指導することが大切である。

小単元名	わたしたちの中野区のように	配当16時間	内容(1)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	---------------	--------	-----------------------

＜主として「地理的環境と人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

中野区の様子について、東京都における区の位置、地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、身近な地域や区の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域や自分たちの区の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①都内における区の位置、区の地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、身近な地域や区の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域や自分たちの区の様子について大まかに理解している。	①都内における区の位置、区の地形や土地利用、交通の広がり、区役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見出し、身近な地域や区の様子について考え、表現している。 ②場所ごとの様子を比較したり、土地利用と地形的な条件や社会的な条件を関連付けたりして、区の様子は場所によって違いがあることを考え、適切に表現している。	①身近な地域や区の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本単元は、内容(1)「身近な地域や市区町村の様子」に関する内容で構成した単元である。事例としては、身近な地域や自分たちの住んでいる市区町村の様子を中心に取り上げることが示されている。
- ②内容の取扱い(1)のイに示された「方位や主な地図記号について扱うこと」については、「つかむ」段階で、児童が自分たちの区の位置を確かめる際に必要となる方位を、また、「調べる」段階で、区の様子を調べる際に必要となる地図記号を、地図帳を参照して理解し活用するように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①小単元の導入で、「グーグルマップ」を利用することで、日本から東京、中野区とクローズアップでき、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的広がり)を働かせながら、都内全体から見た自分たちの区や隣接する区などの位置や位置関係、区内の様子について調べたり考えたりできるようにする。
- ②公共施設の場所と働きでは、「中野区役所」を取り上げる。区役所の場所について、前時までに学習した地形や土地利用の様子、交通の広がりに関連付けて考えられるようにする。区役所の働きでは、多くの区民が利用し、区民が安心・快適に暮らしていけるように手助けする場所であることを押さえるようにする。そのために、区役所で働いている方の話を紹介したり、見学(区内巡り)をしたりして理解を深められるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階において、身近な学校の周りの様子を捉え、丁寧に学習問題づくりを行うが、「自分たちの区」が学習の重点となるように配慮する。学校の周りの様子から得た調べる視点を「調べる」段階で活用できるようにする。学習問題に対する一人一人の予想を基に、地図帳や写真資料、VTRなどの資料を使って、地形や土地利用の様子、交通の様子、主な公共施設、古くから残る建造物を調べ、白地図にまとめられるようにする。
- ②小単元の終末では、調べる段階での問いに沿って整理し、調べたことを関連させながら、ノートにまとめられるようにする。「まとめる」段階では、作品作りに固執するのではなく、学習問題の解決に結び付くように指導する。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を行うために、少人数グループで表や写真の部分に着目させ、部分同士を比較して話し合う活動を行うことで、考えを深められるようにする。

3 小単元の指導計画 (16時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つ か む	①中野区の位置を捉える。	◆中野区は、どこにあるのだろう。 ○中野区は、東京のどこにあるか調べ、中野区の間所を確かめる。	□日本から東京、中野区とクロースアップし、位置を確かめる。 ◎ゲージマップ 【知①】
	②四方位の表し方が分かる。	◆地図はどう読めばいいのだろう。 ○地図帳を開き、四方位と地図記号について知る。	□教室の中で具体的に、窓側が南など四方位を確認する。 ◎地図帳 【知①】
	③④⑤学校の周りの様子について調べ、理解する。	◆学校の周りはどのようにになっているのだろう。 ○商店と住宅街の写真を比べて気付いたことを話し合い白地図にまとめる。・土地利用・交通 ○学校の周りがある坂道や川の写真を見て気付いたことを話し合い、白地図にまとめる。・地形 ○学校のまわりにある公共施設や古くから残る建造物を調べ、白地図にまとめる。	□学校周辺について以下の点に着目して調べるようにする。 ・地形・土地利用・交通・公共施設・古くから残る建造物 ◎地図帳 ◎白地図 ◎学校の周りの写真 【知①】
	⑥中野区の様子に関心をもち学習問題を見だし、学習の見通しをもつ。	○中野区の区歌、地図や写真から知っていることや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を見出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私たちの中野区にはどのようなところがあり、どのような様子なのだろう。</div> ○学習問題に対する予想をし、調べる計画を立てる。 ・地形・土地利用・交通・公共施設・古くから残る建造物	◎地図 ◎中野区の写真 ◎区歌 【態①】 □学校の周り調べから得た視点を活用し学習計画を立てる。
調 べ る	⑦⑧⑨中野区の地形、土地利用、交通について調べ、理解する。	◆中野区の地形、土地利用の様子、交通の様子は、どのようにになっているのだろう。 ○川、土地の高低の様子、隣接する区を白地図に表す。 ○商店や住宅地、工場、田畑について白地図に表す。 ○鉄道やバス路線、駅、大きな道路について白地図に表す。	□学校の周りの様子と関連付けるようにする。 ◎地図帳 ◎白地図 ◎中野区の写真 【知①】
	⑩公共施設について調べ、理解する。	◆中野区には、どのような公共施設があるのだろう。 ○区内の主な公共施設について調べ、白地図に表す。・区民活動センター・警察署・消防署など	□地図記号を確認する。 ◎電車やバスの路線図 ◎地図帳 ◎白地図 【知①】
	⑪区役所の場所を調べ、働きについて考える。	◆中野区役所はどのようなところだろう。 ○中野区役所はどのような場所にあるか話し合う。 ○中野区役所はどのような働きがあるか知る。	◎区役所の写真 ◎地図帳 ◎区役所の人からの手紙 ◎避難所マップ 【思①】
	⑫古くから残る建造物について調べ、理解する。	◆中野区古くから残る建造物は、どのようなものがどこにあるのだろう。 ○神社や寺院、史跡について調べ、地図記号を使って白地図にまとめる。	◎地図帳 ◎白地図 ◎史跡の写真 ◎VTR 【知①】
	⑬⑭⑮見学を通して中野区各地域の様子を理解する。	◆実際の様子はどのようにになっているのだろう。 ○見学(区内巡り)を通して、区内各地域の様子を調べる。 ○実際の様子を観察して気付いたことを話し合う。	□見学を通して、今までの学びを確かめるようにする。 ◎記録カード 【知①】
ま と め る	⑯中野区の様子について自分の考えをまとめ、発表する。	◆中野区はどのようなところなのだろう。 ○中野区の様子について既習したことを関連付けてまとめ、学習問題を解決する。 ・中野区には、わたしたちのために話し合いをしてくれる区役所や中野サンモールなどの商店街、新井薬師などの神社がある。また、家や店が多く、人もたくさん住んでいる。北には畑もある。このように中野区は場所によって違いがあり、住みやすい区だ。	□身近な地域や各地域を比較、関連付けるようにする。 【知②】【思②】

第1時の資料（つかむ）

東京都内における中野区の位置に着目する。

◆自分たちの住む中野区はどこにあるのだろう。



中野区はこんな形をしているんだ。

中野区の周りには、どんな区があるのだろう。



資料 わたしたちの東京都（東京都小学校社会科研究会 明治図書）

第6時の資料（つかむ）

資料 区歌（中野区歌「未来カレンダー Forever Nakano」より一部抜粋）

◆写真や歌詞から中野区がどんなまちか予想しよう。

資料 区内の写真



畑だ。ここも中野区？

歌詞の川は、神田川のことかな。

綺麗な川や坂や建物
絵のような景色 胸に思い描けば
春 長く続く桜並木

たとえば道や駅や広場で
小鳥の囀(さえず)り ハーモニイ
重ねる



なんの建物だろう？



大きなお寺だな。何ていうお寺だろう。

【指導上の留意点】区内の写真や子供の生活経験などをもとに学区から徐々に区全体へ視野を広げられるようにする。

【学習問題】

私たちの中野区にはどのようなところがあり、どのような様子なのだろう。

第7時の資料(調べる)

地形や土地利用、交通の広がりに着目する。

◆中野区の土地利用の様子は、どのようになっているのだろう。

【指導上の留意点】場所ごとの様子を比較して違いを考えたり、調べたことを表現したりできるようにする。

資料 駅前写真、畑の写真



学校のまわりと同じで、えきや大きな通りのまわりには、店や大きなたてものがある。中野区の北には、畑がある。

資料 白地図



第11時の資料(調べる)

区役所の場所と働きに着目する。

◆中野区役所は、どのようなところなのだろう。



資料 区内の地図
区役所で働く人の話

一日に約300人も区役所を利用しているんだ。

中野区役所は、わたしたちが利用しやすい場所にあるんだね。わたしたちのために、たくさんの人が働いていて、相談に応じて場所が分かっているんだね。

第16時の資料(まとめる)

◆私たちの中野区には、どのようなところがあり、どのような様子なのだろう。

中野区には、わたしたちのために話し合いをしてくれる区役所や中野サンモールなどの商店街、新井薬師などの神社があります。中野区は場所によって違いがあることが分かりました。住みやすいよい区です。

中野区は、住たく地が多くあり、北の方に少し畑があります。駅の周りや大きな道路の周りには、大きなビルやお店がたくさんあり、人もたくさんいてにぎやかです。

【指導上の留意点】調べたことを手がかりに、関連付けながら身近な地域や区の様子を文章や白地図にまとめることができるようにする。



小単元名	武蔵村山市の工場の仕事	配当10時間	内容(2)の(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	-------------	--------	----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①市内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、工場で働く人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、工場の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	①市内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見出し、工場で働く人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②工場の仕事と市の人々の生活を結び付けて、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	①市内にある織物作り工場の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した単元である。事例としては、武蔵村山市の生産の仕事の中から織物産業を中心に取り上げている。
- ②内容の取扱い(2)の(ア)では、「事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること」となっている。選択する際、地域の実態に応じた学習が展開できるか、市の人々の仕事の特色を具体的に捉えることができるかなどに留意することが求められている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本教材は、武蔵村山市の生産の仕事の中から、織物を作る中小工場を取り扱う。児童自身が日常的に着用する衣類などとの比較から、その技術の高さや丁寧さに気付き、問いを容易にもつことができる。また、人の手による作業が多いことから、生産工程そのものや、その中で見られる工夫や努力が分かりやすいことも特徴である。
- ②工場の人々の仕事の様子については、この工場で作られる織物を家庭で使っている人がいることを取り上げるなど、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて生産の仕事と地域の人々の生活を関連付けて調べたり考えたりできるようにする。また、児童の身近な生活の中にあるだけでなく、市のホームページでも取り上げられるなど、市の名産品として扱われていることも捉えられるようにする。
- ③本教材は、工場や資料館での見学だけでなく、実際に児童が体験を行うことができ、工場で働く人々の仕事の様子を具体的に捉えることができる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり)を働かせ、地図を用いて市内の生産活動の分布を捉えられるようにし、様々な生産活動があることを理解した上で本教材につなげるようにする。
- ②見学・体験の際には、写真やビデオを用いて事前学習を行う。そうすることで、児童が見学の視点を持ち、より主体的な見学ができるようにする。
- ③「まとめる」段階では、学習問題の解決の際に、作業工程を図にまとめることを通して、様々な工夫があることに改めて気付けるようにする。また、製品のよさや働く人の工夫を伝えるポスター作りをすることで、児童が理解したことや考えたことを表現できるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つかむ	①武蔵村山市の生産の仕事に関心を持ち、市の生産されている織物について理解する。	○市のHPの写真から、市内でつくられているものについて話し合う。 ◆武蔵村山市では、どのようなものがつくられているのだろう。 ○地図を読み取り、市の生産の様子を知る。 ○織物に触れ、詳しく観察する。 ・細かく織られている。 ・誰がつくったのだろう。	◎武蔵村山市HP写真 ◎武蔵村山市の産業分布地図 ◎織物 □市内には様々な生産活動があることを理解できるようにする。 【知①】
	②学習問題を見出し、見通しをもつ。	○織物づくりについて知りたいことを話し合い、学習問題を見出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">職人さんたちは、どのようにして織物をつくっているのだろう。</div> ○学習問題に対する予想をし、調べる計画を立てる。 [予想]・専門の道具を使っている。 ・修行が必要。 [計画]・織り方、染め方を調べる。 ・インタビュー	◎織物 ◎作業の様子や道具の写真【思①】 □生活経験だけでは分からないので、予想の根拠となる資料を用意する。 【態①】
調べる	③糸の染色方法を調べ、つくり方やその工夫や難しさを理解する。	◆どのようにして真っ白な生糸を染めているのだろう。 ○独自の染色方法について、資料から読み取る。 ・木を彫るところから始めている。 ○見学の際に調べたいことを発表する。 ・どうしてこんなに面倒なやり方をするのか。	◎作業の様子や道具の写真 ◎映像資料(染色の様子) □映像を流すだけでは理解は難しいので、随時止めて、細部を確認していく。 【知①】
	④糸の織り方を調べ、様々な工夫や難しさを理解する。	◆どのようにして糸を布の状態にしているのだろう。 ○織り方について、資料から読み取る。 ・一つ間違えると全てやり直し ○見学の際に調べたいことを発表する。 ・職人さんでも多くの時間がかかるなんて、どれだけ練習したのか。	◎作業の様子や道具の写真 ◎映像資料(織機の様子) □「なぜ手間と時間のかかるやり方をするのか」という疑問に辿り着かせたい。 【知①】
	⑤⑥⑦工場で見学、体験を行い、つくる人々の工夫に気付く。	◆工場では、どのような工夫や努力をしているのだろう。 ○実際に使う道具や歴史について知る。 ○染色や織機の使い方を体験する。 ○織物を作る人々にインタビューをする。	□「人々の工夫や努力」「作る難しさと職人の凄さ」に気付けるような内容になるよう事前打ち合わせを行う。 【思①】【態①】
	⑧織物と自分たちの生活とのつながりに気付く。	◆つくられた織物は、どこにいくのだろう。 ○つくられた織物が取り扱われているところについて調べる。 ・店に特別なコーナーがあった。・家で使っていた。	◎市のポスター ◎販売の様子の写真 【知①】
まとめる	⑨⑩学習問題に対する自分の考えをまとめ、発表する。	○調べた事実に着目してまとめの作業工程図をつくり、それをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・職人さんたちは、細かい作業をていねいに行いながら、使う人に喜んでもらえるよう工夫しており物をつくっている。また、そのおり物は家族に大切に使われたり、市の名産になっていたりと、武蔵村山市のじまんの物になっている。</div> ○学習したことをもとに、織物のよさや職人さんの思いが伝わるようにポスターを作り、発表し合う。	□働く人の工夫や努力に着目して、作業工程図にまとめる。 【思②】 □生産量が減っている中、工夫や努力をしている職人さんの思いに焦点を当て、作るようにする。 【知②】

小単元名	葛飾区の農家の仕事	配当10時間	内容(2)の(ア)及び(ウ)とイの(ア)
------	-----------	--------	----------------------

＜主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

地域に見られる生産の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①区内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、農家の人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解している。	①区内の生産の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見出し、農家の人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②農家の仕事と区の人々の生活を結び付けて、地域に見られる生産の仕事と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	①区内にある農家の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した単元である。事例としては、葛飾区の小松菜作り農家の仕事を中心に上げている。
- ②内容の取扱い(2)の(ア)では、「事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること」となっている。選択する際には、地域の実態に応じた学習が展開できるか、市の人々の仕事の特色を具体的に捉えることができるかなどに留意することが求められている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①児童が「自分たちの住む葛飾区には野菜の生産に関する仕事をしている人がおり、安定しておいしい小松菜を生産するために様々な工夫をしていることや、葛飾区の人々の生活と関わりがあること」を理解できる事例として、本小単元では、東京近郊で盛んに生産されている小松菜農家を取り上げる。
- ②農家の人々の仕事の様子については、区内で生産された小松菜が学校給食に使われたり、直売所で販売されたりしていることを取り上げるなど、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて生産の仕事と地域の人々の生活を関連付けて調べたり考えたりできるようにする。
- ③農家の人々の仕事の様子を具体的に捉えるために、農家を見学したり資料から必要な情報を集めたりできるようにする。見学や調査では、農家と打ち合わせを行うとともに、児童が視点をもって見学に行かれるように留意する。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①「つかむ」段階では、第1単元で学習した区内の土地利用の様子を振り返り、地図を用いて市内の生産活動の分布を取り扱い、具体例として農家の仕事に焦点化する。農家の人々の工夫や努力を捉える学習問題や、産地の分布、生産の工程、施設・設備の工夫、販売先に着目する問いを見だし、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②児童相互の関わりだけでなく、農家の人との関わりを通して、児童が互いの言葉を受け止め合い、対話しながら集団や個人の考えを深めることができるようにする。
- ③「まとめる」段階では、小松菜のよさを伝えるキャッチフレーズを作るという活動を通して、農家の人々の仕事の様子と地域の人々の生活を結び付けて考えることができるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つ か む	①葛飾区の生産の仕事に関心をもち生産された野菜について理解する	◆わたしたちの葛飾区では、どのようなものがつくられているのだろう。 ○地図を読み取り、葛飾区の実産の様子を知る。 ・鉛筆を作っている工場がある。 ・畑では、いろいろな種類の野菜をつくっている。 ○資料を見て、葛飾の野菜の実産の様子を知る。 ・住宅地の中に畑が点在している。 ・小松菜の実産量が多い。	◎葛飾区の実産分布地図 □区内には様々な実産活動があることを理解できるようにする。 ◎葛飾区の実産の分布地図 ◎葛飾区の実産の取れ高 □畑がある場所の分布を読み取らせる。 【思①】
	②学習問題を見出し、学習計画を立てる。	○農家の小松菜づくりについて知りたいことを話し合い、学習問題を見出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">葛飾区の実産では、どのような工夫をして小松菜をつくっているのだろう。</div> ○学習問題に対する予想をする。 ・ビニールハウスの中でつくっている。水やりをする。 ○学習計画を立てる。 ・実産の工程 ・施設・設備の工夫 ・販売先	◎小松菜の実産時期 □町探検で見付けたことや、理科や生活科での栽培の実験を基に予想させる。 【態①】
調 べ る	③小松菜づくりについて調べ仕事の工程を理解する。	◆小松菜はどのようにつくられるのだろう。 ○小松菜作りの作業工程を調べる。 ・土を耕す ・種をまく ・実産 ・出荷	◎小松菜ができるまで(写真資料) ◎小松菜の種の実産先 【知①】
	④農家見学の計画を立て、見学の視点をもつ。	◆小松菜農家はどのようなところで、どのように小松菜をつくっているのだろう。 ○農家見学のための計画を立てる。 <見てくること>…畑の広さや施設・設備、道具 <聞いてくること>…おいしい小松菜をつくる工夫	□前時までの学習を基に、疑問点を出し合い、見学の視点をもたせる。 【知①】
	⑤⑥⑦農家に見学に行き、実産の様子や工夫を理解する。	◆小松菜農家では、おいしい小松菜をつくるために、どのような工夫をしているのだろう。 ○小松菜農家を見学する。 ○小松菜農家の工夫を話し合い、まとめる。 ・時期をずらして種をまくことで、一年中実産できる。 ・土づくりや害虫の駆除など多くの作業をしている。	□ビニールハウスの設備の工夫や、仕事の手順に気付かせる。 □一年中実産できる工夫、害虫を防ぐ工夫、おいしい小松菜をつくる工夫など、項目ごとにまとめる。 【知①】
ま と め る	⑧小松菜の実産先について調べ、自分たちの生活とのつながりを分かりまとめる。	◆実産された小松菜は、どこに送られるのだろう。 ○実産された小松菜の実産先について調べ、白地図にまとめる。 ・市場 ・スーパー ・直売所 ○小松菜が学校給食で使用されていることを知る。 ・私たちは、地域で実産された小松菜を食べている。	◎小松菜の実産先 □地域で実産された物が、直売所で実産されたり、給食で使用されたりして、私たちの生活と関わりがあることに気付かせる。 【思①】
	⑨⑩学習問題に対する自分の考えをまとめ、自分なりの関わり方を考える。	◆どのような工夫をして小松菜をつくっているのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">・農家では、住宅地の中にあるビニールハウスの中で、種をまく時期をずらして、一年中、小松菜をつくっている。農薬をまく回数を減らしたり、虫がはいらないようにしたりして、おいしく、安心・安全な小松菜をつくっており、私たちの給食にも使われている。</div> ○小松菜のよさを伝えるキャッチフレーズを創る。 ・一年中 いつでもおいしい 安全な小松菜 ・たくさん食べよう とれたて 新鮮な小松菜	□キャッチフレーズの説明を書かせる。 【知②】【思②】

小単元名	わたしたちのくらしとお店の仕事	配当 11 時間	内容(2)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------	----------	-----------------------

<主として「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見出し、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②販売の仕方を分類したり、販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けたりして考え、適切に表現している。	①販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(2)「地域に見られる生産や販売の仕事」に関する内容で構成した単元である。販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう、商品の品質、並べ方、値段の付け方などを工夫していること、商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを基に、販売の仕事の様子について理解できるようにすることが求められている。
- ②内容の取扱い(2)のイには、「他地域や外国との関わりを扱う際には、地図帳などを活用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにすること」とあり、特に地図帳の活用が求められている。また、外国を取り上げる際には国旗についても取り上げ、我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を育てるようにする。

(2) 教材や資料の工夫

- ①地域や児童の生活の実態に応じて小売店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、デパート、移動販売などの中から選択して商店を取り上げ、それらとの事前の十分な打ち合わせを経て、児童が観点に基づいて見学や調査ができるよう留意する。
- ②消費者の願いを調べるには買い物調べが考えられるが、消費行動の多様化等により難しいこともある。本教材では、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせて消費者の願いや販売の工夫との関連を調べ考えられるよう、販売の仕事の工夫として調べたことを消費者である保護者に確認するようにした。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①販売者、消費者双方の販売や買い物の様子、思いや願いについて調べ、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるように構成した。本指導計画では、児童がどちらの立場で考えているのか明確にして学習を進めることができるようにした。具体的には、第7時まで販売者の立場で学習を進め、第8時に消費者の立場から考えるようにした。
- ②対話的な学習活動を、随所で設定した。特に、見学で調べた情報を集客の工夫として概念化する場面においては、形態や手だてを工夫した友達との学び合いを設定した。
- ③本指導計画では、小単元を通して販売の工夫を「作戦」という言葉で追究をさせるようにした。あえて「作戦」とすることで、多くの客に来てもらうために店員が意図的に様々な工夫を行っていることを、児童が自然に理解できるようにした。

3 小単元の指導計画 (11時間扱い)

※紙面の都合で、スーパーマーケット→店 と表記

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つかむ	①店の売り場の写真や店長の話から仕事の様子を理解する。	○魚売り場の写真を見て、気付きや疑問を話し合う。 ◆店の売り場は、どのようになっているのだろう。 ○別の時刻の写真と比較し、2枚の写真の順序と気付いたことや考えたことを話し合う。 ○野菜売り場の比較と店長の話から、店の意図を知る。 ・意図的に売り場を変える。 ・新鮮さを大切にする。	◎魚売り場の様子(午前中、夕方) □日頃見ている売り場の様子に、改めて着目させる。 ◎野菜売り場の変化、店長の話 □新鮮な商品を売るために、店員が意図的に売り場を変化させていることを捉えさせる。【知①】
	②売り場の様子や来客数から学習問題をつくり、学習計画を立てる。	○前時の内容と来客数から学習問題を設定する。 店員は多くの人に来てもらうために、どのような作戦を立てているのだろう。 ○店内の全体図から、予想を立てる。 ・新鮮でよい物 ・案内表示 ・服装 ・店員の仕事 ○店の見学の計画(内容・方法)を立てる。 内容：仕事、品質管理、並べ方、値段の付け方、宣伝 方法：店の見学、店員へインタビュー	◎一日の来客数、混雑の写真 ◎店内の見取り図 □資料を根拠に予想させる。 □内容、方法について見通させる。 【思①】 【態①】
調べる	③④店を見学し、店内や仕事の様子を調べる。	◆店や店員さんには、どのような作戦があるのだろう。 ○店を見学し、売り場や商品の様子を観察する。 ○店員の話聞き、インタビューする。	◎店、店員 □見学や話の内容は、事前に十分に打ち合わせを行う。【知①】
	⑤店で働く人々の工夫や努力を理解する。	◆店や店員さんには、どんな作戦があったのだろう。 ○見学で集めた情報を確かめ合い、集客の工夫(作戦)について話し合う。 ・よい商品がある作戦 ・みんなに優しい作戦 ・見やすく便利な置き方作戦 ・プロの技作戦	◎前時の見学メモ、写真 □班、学級など形態を工夫する。 □「特に大切な3つ」など限定し、作戦の価値を理由付けさせる。 【知①】
	⑥工夫が売り場で行われていることを、具体的に理解する。	◆作戦は売り場にどのように生かされているのだろう。 ○魚売り場を例に作戦がどう生かされているか考える。 ・買う人に合わせて様々な量、形態 ・売り場表示 ・保存の仕方 ・陳列のタイミング ・関連陳列	◎任意の売り場の写真 □任意の売り場を例に作戦を確認し、抽象化した作戦を具体的に見られるようにする。【知①】
	⑦国内各地や外国の商品により、豊富な品揃えが実現していることを理解する。	◆品ぞろえには、どのような作戦があるのだろう。 ○魚売り場の商品から産地を調べ、白地図にまとめる。 ・日本や世界の各地から商品が仕入れられている。 ・地域や国によって、様々な種類の商品がある。 ○国内各地や外国から仕入れる理由を考える。 ・各地とのつながりで様々な美味しい物を販売できる。	◎魚売り場の商品の産地、地図帳 □白地図にまとめる際は地図帳を活用し、国旗にも触れる。 □他地域との繋がりが豊富な品揃えや美味しい商品の販売につながることを捉えさせる。【知①】
まとめる	⑧集客の工夫に対する消費者の思いを調べ、生活が支えられていることを考える。	◆家の人は、店の作戦をどう思っているのだろう。 ○店の利用者(保護者)に、店の作戦について確認する。 ・店員の作戦を、確かに客は便利、嬉しいと感じている。 ○買い物をする際、他に感じていることについて聞く。 ・店員の作戦も完璧ではない。消費者にも願いがある。 ・作戦のおかげでよい物を便利に買い物できる。	◎保護者(店の利用者として) □立場を変え、消費者の立場から工夫を考えられるようにする。 □消費者の願いに応じており、さらなる消費者の願いもあることを捉えさせる。【態①】【思①】
	⑨学習問題に対する自分の考えをまとめ、発表する。	◆店員は多くの人に来てもらうために、どのような作戦を立てているのだろう。○学習問題について話し合う。 ・店員さんは、よりよい商品を守るために、仕入れや保存方法、陳列のタイミングなど様々な工夫し、売り場の配置や並べ方も買い物のしやすさを考え行っている。それらは様々な願いをもつお客さんに喜ばれており、だから毎日たくさんのお客さんが来ている。	◎これまでの学習記録 【知②】【思②】
	⑩⑪販売者の仕事に見られる工夫について、パンフレットに表現する。	○単元の学習をふり返り、客の願いに応えるために特に大切だと考える作戦をいくつか選ぶ。 ○選んだ作戦について、工夫の内容と集客に繋がる理由をパンフレットにまとめる。	◎店長の話 □作戦の重要性を考えるために、数を限定し表現させる。 □消費者の願いに触れて記述させる。 【態①】

小単元名	火事から地域の安全を守る	配当9時間	内容(3)アの(ア)(イ)及びイの(ア)
------	--------------	-------	----------------------

<「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

火災から地域の安全を守る働きについて、消防署などの施設や設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、消防署などの関係機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に火災から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①火災から地域の安全を守るための働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、消防署などの関係機関は地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、火災から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、火災から地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(3)「地域の安全を守る働き」に関する内容で構成した単元である。事例としては消防署の働きを中心に上げている。
- ②内容の取扱い(3)のイに示された「社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱う」の具体的な指導事項としては、「防火設備の設置や点検」、「消防訓練の義務」等となっている。消防署の人や校内の防火責任者である副校長、消防団の人の話などを取り入れた活動を工夫するとよい。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対応する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解する」ために、地域の消防に関わる施設・設備や消防団の取組を取り上げ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせながら調べたり考えたりして、地域住民も連携して活動していることを理解できるようにする。
- ②「調べる」段階では、消防署、校内の防火施設、地域の防火施設の見学・調査を行う。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①導入では、実際の火災の写真や映像資料を提示し、人命や財産を奪う火災の恐ろしさ悲惨さが捉えられるようにする。主体的な学びについては、現場に数分で到着し火事現場で活躍する消防士や身近な地域の火事等の事実から、火災時は誰がどのように活動しているのかという学習問題を見だし、学習の方向付けや解決の見通しをもたせる。
- ②「火災発生時の消防署を中心とした関係機関の連携」を構造的に理解できるように、119番通報から出動・消火までの流れを、関係諸機関のつながりを矢印で結んだ一つの図にまとめていく活動を取り入れる。
- ③小単元の終末に「いかす」段階を設定し、地域の防火のために自分たちにできることを話し合い、選択・判断する。それを標語やポスター等にまとめ、保護者や他学年児童、地域の人に発信する活動を設定する。

3 小単元の指導計画と評価計画 (9時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つかむ	①②火災を防ぐ働きに関心を持ち、学習問題を見だし、学習の見通しをもつ。	◆火事が起きると、どのような被害が出るのだろうか。 ○火事の写真や映像を見て気付いたことを話し合う。 ・激しい炎、煙に家が包まれている。 ○身近な地域での火事の現状や火事が起きたときの消防の働きを知り、学習問題を見出す。	◎火事現場の写真、映像 □火災の様子、悲惨さを実感できるようにする。 【思①】 ◎■■■署管内の出火件数、一件当たりの消失面積 ◎通報から消防車到着までの時間
		<p>火事から人々の安全を守るために、どんな人たちが、どのようなことをしているのだろうか。</p> <p>○学習問題の予想をし、学習計画を立てる。 [調べる内容]・消防署の工夫・学校や家、町の工夫 [調べる方法]・消防署の見学、インタビュー ・学校、町の施設見学、インタビュー ○消防署見学で見たいこと聞きたいことを整理する。</p>	□調べる内容と方法を整理し、学習の見通しが立てられるようにする。 【態①】
調べ	③④消防署員の方々の働きや努力、施設の工夫を理解する。	◆消防署の人は、どのような仕事をしているのだろうか。 ○消防署の見学をして、設備や仕事の様子を調べる。 ・消防車・訓練・勤務体制・点検・パトロール等	□迅速な出動・消火、日常的な防火のための工夫を捉えられるようにする。 【知①】
	⑤火災発生時に、関係機関がどのように連携しているかを理解する。	○消防署の見学で分かったことや疑問点を整理する。 ◆火事の時、消防署の人だけで活動するのだろうか。 ○119番通報から消火までの活動の流れを調べ、図にまとめる。 ・災害救急情報センターが各機関へ連絡している。 ・警察署、水道局、ガス・電気会社が協力している。	◎火事現場の写真 ◎119番の仕組み(諸機関の関係図) □多くの機関が短時間で連携し、火災に対処していることを捉えられるようにする。 【知①】
	⑥⑦校内、地域の消防・防火施設や取組を調べ、学校も地域も共に火災に備えていることを理解する。	◆学校や地域の消火・防火のための工夫はどのようなものだろうか。 ○校内の消火・防火のための施設、取組を調べ、校舎図に表す。(⑥) ・消火器、防火バケツ、消火栓、火災報知器 ・副校長(防火責任者)の話・設備の点検、防災訓練、 ○地域の消防施設、防火の取組を調べ、地図にまとめる。(⑦)・消火栓・消防水利・消防団倉庫 ・消防団の人の話・夜回り・パトロール	◎校舎図 □消火・防火施設の計画的な配置とともに、点検や消防訓練の義務にも触れる。 【知①】 ◎学校の周りの白地図 □施設・設備だけでなく、消防団などの地域の人が消防署と連携して防火に努めていることをつかませる。 【知①】【思①】
まとめる	⑧学習問題に対する自分の考えをまとめる。	◆自分たちの安全は、どのような取組で守られているのだろうか。 ○学習問題に対する自分の考えを書き、話し合う。 ・おそろしい火事からわたしたちを守るために、消防署を中心としたいろいろな機関が、協力しながら、素早く消火できるように努めている。また、防火のために消防署や地域の人々が、日頃から施設・設備を整えたり、訓練したり、パトロールしたりしている。	◎これまでの学習記録 【知②】【思②】
いかす	⑨地域の防火のために、自分ができることを考え、話し合う。	◆防火のために、自分たちは何ができるのだろうか。 ○防火のために行動できることをポスターに表す。 <ポスターの標語例> ・火遊びは ぜったいしない 火事のもと ・消防団と いっしょによびかけ「火の用心」	◎地域の方の話 □発信先は、下級生や保護者、地域の人等、児童の意欲が喚起される相手を選ぶ。 【態②】

小単元名	事故から地域の安全を守る	配当7時間	内容(3)アの(ア)(イ)及びイの(ア)
------	--------------	-------	----------------------

<「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設や設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察書などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に事故や事件から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①事故や事件から地域の安全を守るための働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、警察署などの関係機関は、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故や事件の防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、結び付けたりして、関係機関の相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、事故や事件から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを選択・判断したりして、適切に表現している。	②学習したことを基に、事故や事件から地域の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(3)「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に関する内容で構成した単元である。事例としては警察署の働きを中心に取り上げているが、消防の学習で学んだことを活かして、カリキュラム・マネジメントの考え方で展開するとよい。

②内容の取扱い(3)のイに示された「地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で、児童が地域社会の一員として自分たちにも協力できることや日頃から心がけるべきことについて考えをもてるようにしている。

(2) 教材や資料の工夫

①「地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解する」ために、地域の安全に関わる施設・設備や安全指導員の方の取組を取り上げ、社会的事象の見方・考え方(事象や人々の相互関係、関連)を働かせながら自分たちに関わる身近な問題として捉えられるようにする。

②事故や事件が起きた時の体制については、火災が起きた時の体制と比較しながら、理解を深めていけるようにする。

③地域の安全に関わる課題として、児童の自転車の事故や交通ルールの違反に関する事例や地域の方の話を取り上げることで、道路交通法や自転車安全利用五則などの法やきまり、自分自身の安全を守るためにできることを考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①調べて分かったことを説明し合い、警察署、消防署、地域など関係する人々の取り組みを消防の関係諸機関の連携と比較しながら整理し、まとめる。

②学習問題をまとめる中で、地域の安全に関わる課題に気付かせる。そして、自分たちにできることを考える「いかす」段階を設定し、情報交換を通して自分の考えを標語にまとめ、地域に発信する活動を行うようにする。

3 小単元の指導計画（7時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される児童の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点 ◎資料 【評価】）
つ か む	①警察の人々や地域の人々の取組に関心を持ち、学習問題を見だし、学習の見通しをもつ。	◆なぜ、事故や死者・けが人の数が減っているのだろう。 ○絵資料から、事故・事件が起こり得る場所について話し合う。 ・信号のない交差点が危ない。 ・公園には不審者がいるかもしれない。 ○東京都の交通事故の発生状況や死者・けが人の数が減少している事実から、その理由について考える。 ・すぐにパトカーや救急車が駆けつける。 ・ルールが厳しくなった。・誰かが見回っている。	◎身近な地域の危ない場所を表した絵資料 □事故と事件の両面から危険な要素を出し合う。 ◎交通事故の発生状況、死者・けが人の推移のグラフ □予想について、ルール（交通規則）、人の働き、安全を守る設備に分類し、学習計画につなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 私たちが安心して生活できるようにするために、警察や地域の人々はどのような取組をしているのだろう。 </div>			
		○学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。 ・警察の働き ・施設、設備 ・地域の取組	□消防の学習で学んだ視点を活かす。 【思①】【態①】
調 べ る	②③事故が発生した時に、関係諸機関がどのように連携しているか理解する。	◆事故が発生した時には、誰がどのような働きをしているのだろう。 ○資料から、関係諸機関がどのような役割を果たし、連携しているかを調べる。 ・警察は交通整理や事故の原因を調べるなどしている。 ・レスキュー隊が閉じ込められた人を助けている。 ・救急隊が、けが人を救助している。	◎事故現場の写真 ◎事故が起きた時の連絡の流れ □火災発生時の関係諸機関の連携と比較して、似たような対応をしていることに着目させる。 【知①】
	④地域の安全を守るための施設や設備を調べ、諸活動を捉える。	◆私たちの暮らす町には、安全を守るためにどのような施設や設備があるのだろう。 ○学校周辺にある安全を守る施設や設備について小グループで調べる。 ・ガードレール ・信号 ・標識 ・子供110番の家 ・交番	◎学校の周りの白地図 ◎学校の周りの写真 □白地図に整理し、身近にある安全を守る施設・設備に着目させる。 【知①】
	⑤警察署や地域の人々の安全を守る取組を調べ、工夫や努力を理解する。	◆警察署や地域の人々は安全を守るためにどのような取組をしているのだろう。 ○資料から、安全を守る取組について調べる。 （警察）・交通安全教室 ・駐車違反のチェック ・パトロール ・防犯キャンペーン （地域）・登校の見守り ・自転車パトロール	◎警察署、地域の人々の話 ◎活動の様子の写真 ◎子ども110番のステッカー □身近な地域に、安全に関わる取組をしている人々がいることに着目させる。 【知①】
ま と め る	⑥学習問題に対する自分の考えをまとめる。	◆警察や地域の人々は協力してどのような取り組みをしているのだろう。○学習問題について話し合う。 ・私たちの安全を守るために、警察や地域の人々などはパトロールをしたり、注意を呼びかけたりするなど、それぞれ協力しながら取り組んでいる。また、事故が起きた時は、警察や消防などと協力しながら、対応している。	◎これまでの学習記録 【知②】【思②】
い か す	⑦地域の安全に関わる課題を知り、自分にできることを考え、発表する。	◆安全を守るために、自分たちにできることはあるのだろうか。 ○安全に関わる課題を知り、自分にできることを標語にまとめる。 ・交差点 確認しよう 右左 ・交通の ルールを守って 皆笑顔	◎安全指導員の方の話 ◎自転車安全利用五則 ◎これまでの学習記録 □安全を守るには、ルールを守る必要があることに注目させる。 【態②】

小単元名	多摩市のうつりかわり	配当17時間	内容(4)アの(ア)及び(イ)とイと(ア)
------	------------	--------	-----------------------

＜主として「歴史と人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

多摩市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にこれからの市の発展のために地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなどについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことと理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見出し、市や人々の生活の様子について考え、表現している。 ②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化したこと、土地利用の様子や生活の道具が変わってきたことなどを相互に関連付けたり、市の様子の変化と生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の生活の様子の変化を考え、適切に表現している。	①市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に地域社会の一員として、市の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)「市の様子の移り変わり」に関する内容で構成した単元である。事例としては「多摩市の様子の移り変わり」を交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して調べていく。
- ②内容の取扱い(4)のウに示された「『人口』を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で、児童が市民として市の発展に関心をもち、市の将来について考えたり討論したりすることができるように意図している。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元は、市や人々の生活の様子の移り変わりを理解することがポイントである。そのため、小単元を通して社会的現象の見方・考え方(時期や時間の経過、比較)を働かせて調べたり考えたりできるよう、写真を活用したり地域の人を登場させたりしている。
- ②「調べる」段階では、グラフ資料(「多摩市の人口の移り変わりの棒グラフ」等)に加えて、地域の高齢者、市役所の人、地域の博物館や資料館の人などに聞き取り調査する活動を取り入れている。
- ③本教材では「いかす」段階を設け、調べてきたことや少子高齢化、国際化の視点から、これからの市の発展について考え、話し合い、討論するなどの活動が考えられる。ここでは「多摩市未来プロジェクト」として、話し合ったことを市役所の人に発信していく活動を取り入れている。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①本単元は市の移り変わりの様子について、着目したそれぞれの視点の変化の傾向を調べたり考えたりできるよう「～はどのように○○だろう」といった問いを設定し、「まとめる」段階では調べたことを関係付けて年表にまとめる。
- ②主体的に学ぶための工夫として、「調べる」段階でそれぞれの視点の変化に着目しながら「交通では～のような変化をしていたから、土地利用では○○だろう」のように1時間単位の予想を立てて考えることができるようにする。また、市役所の人や地域の高齢者への聞き取り調査を取り入れることで対話的な学びを充実させる。
- ③「調べる」段階では、①人口と土地利用、②交通、③生活の道具の順に年表や地図に整理しながら調べていくことで、人口の増減や市町村合併の時期など変化の大きい時期に着目して調べることができるようにする。人口の変化と着目したそれぞれの視点と関係付けることで変化の傾向を読み取りやすくしていく。

3 小単元の指導計画（17時間扱い）

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い（◆）と主な学習活動（○） 予想される児童の反応（・）	教師の指導・支援 （□留意点 ◎資料 【評価】）
つ か む	①②多摩市の昔や今の様子を地図や写真で比較して、移り変わりについて関心を持ち、学習問題をつくる。	○昔の多摩市の地図と今の多摩市の地図を比較して、違いを読み取る。 ◆昔と今の多摩市はどんなところが違うのだろう。 ○2枚の写真資料から昔の生活の様子と今の生活の様子を比較して読み取り、学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">私たちの住む多摩市の様子はどのように変わってきたのだろう。</div>	◎現在の多摩市の地図や写真と昔の多摩市の地図や写真 □交通や公共施設、土地利用など第1単元との関連を図る。 【思①】
	③学習問題に対する予想や学習計画を立て、見通しをもつ。	○前時の資料を基に、学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。 〔予想〕・道路や線路は増えているのではないかな。 ・道具は改良されてきたのではないかな。 〔計画〕・交通 ・公共施設 ・土地利用 ・人口 ・生活の道具	□前時の資料を基に調べる視点を明確にしていく。 【態①】
調 べ る	④⑤人口の変化や土地利用の変化について調べ、理解する。	◆人口や土地の使われ方はどのように変わってきたのだろう。 ○人口の変化について調べる。 ○土地利用の変化について調べる。 ○人口の変化と土地利用の変化を比較したり、関連付けたりして話し合う。	◎今と昔の土地利用図 ◎人口変化のグラフ □市町村合併や人口の増減について着目する。 □調べた項目ごとに年表にまとめる。 【知①】
	⑥⑦多摩市の交通網の変化について調べ、理解する。	◆鉄道や道路はどのように整備されてきたのだろう。 ○鉄道や道路の整備される様子について写真資料等を用いて調べる。 ○人口の変化と関連付けて、交通網の整備の様子について話し合う。	◎鉄道や道路の整備された様子が分かる資料 ◎地域の博物館や資料館の人の話 □変化を白地図にまとめる。 【知①】【思①】
	⑧⑨⑩公共施設の設立の経緯を調べ、理解する。	◆どのような公共施設が建てられてきたのだろう。 ○公共施設ができたところと今の様子を調べる。 ○市役所の人の話から公共施設がどんな役割を果たしてきていたかを調べ、話し合う。	◎市役所の人の話 □公共施設の建設や運営に租税が重要な役割を果たしていること触れる 【知①】
	⑪⑫⑬生活の道具の変化を調べ、理解する。	◆生活の道具はどのように変わってきたのだろう。 ○道具の使い方と生活の様子の変化について調べる。 ○地域の高齢者に聞き取り調査をする。 ○道具の変化の理由について話し合う。	◎昔の道具と今の道具 ◎地域の高齢者の話 【知①】
ま と め る	⑭⑮年表に表現し、学習問題に対する自分の考えをまとめ、発表する。	○調べてきた事項を1枚の年表に整理する。 ○年表から学習問題に対する自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">・多摩市は、人口が増えたり減ったりするとともに交通や公共施設の様子、土地の使われ方が変わり、生活の道具の様子も変化してきている。特に多摩ニュータウンができた昭和40年代に交通や公共施設、土地の使われ方、生活の道具の様子が大きく変わった。</div>	□変化の様子を関係付けてまとめる。 □年表を作成する際は元号を用いる。 【知②】【思②】
い か す	⑯⑰これからの多摩市の発展に関心を持ち、自分なりに考える。	◆これからの多摩市はどのようになるとよいのだろう。 ○少子化、高齢化、国際化の問題を捉え、話し合い、これからの多摩市の将来の姿「多摩市未来プロジェクト」を考える。	◎市役所の作成している資料 ◎市役所の人の話 【態②】

第1・2時の資料（つかむ）

◆昔はどんな様子だったのだろう。

資料 昔の駅前の写真



昔の東小金井駅南口（今の東小方向）



昔の東小金井駅北口（今の東小方向）

人・土地利用・交通・公共施設に着目する。

どこの写真だろう。

楽しそうだな。何をしているのだろう。



昔の武蔵小金井駅前

昔、駅前は畑だったんだ。

写真・図等掲載許諾済
[小金井市教育委員会]

【指導上の留意点】

他に、学校や地域の昔と今の写真を提示し、気付いたことや知りたいことを話し合わせる。

【学習問題】

私たちの住む小金井市の様子は、どのように変わってきたのだろう

○授業中は、約30年ごとに年代を区切ったものを掲示し、どの年代の資料かを確認しながら提示。

明治	大正	昭和	平成	令和
30	1 15	1 30	64 1 31	

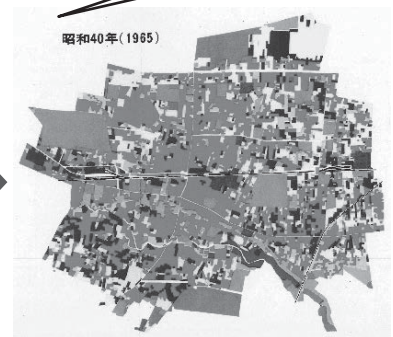
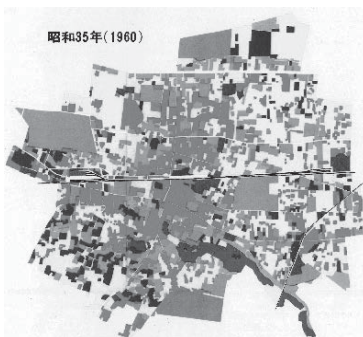
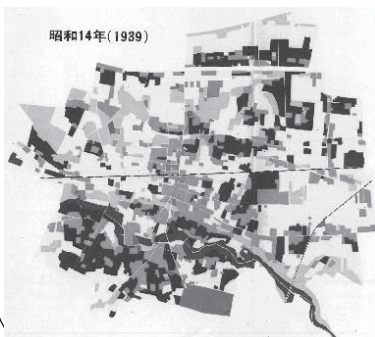


第4時の資料（調べる）

◆土地利用はどのように変わってきたのだろう。

資料 今と昔の土地利用図

住宅地がどんどん
増えているよ。

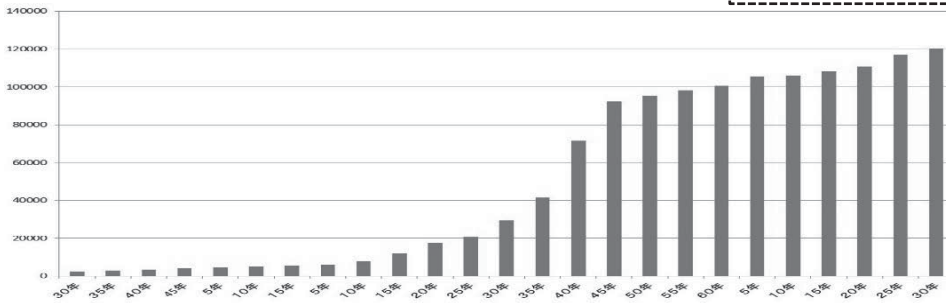


第5・6・7・8時の資料（調べる）

◆人口・土地利用・交通どのように変わってきたのだろう。

【指導上の留意点】土地利用や人口の推移と交通、公共施設の移り変わりを関連させて考えられるようにする。

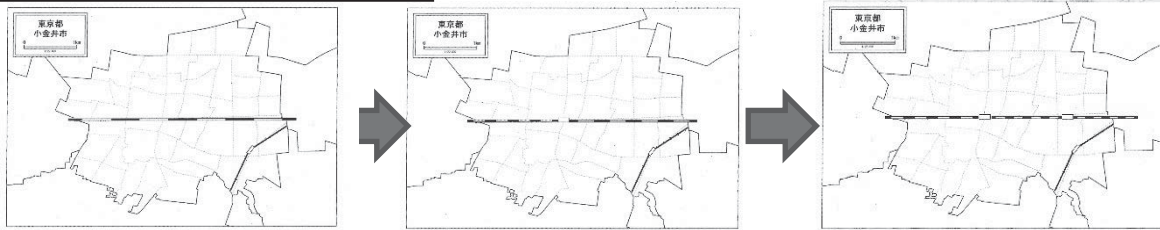
資料 小金井市の人口推移グラフ



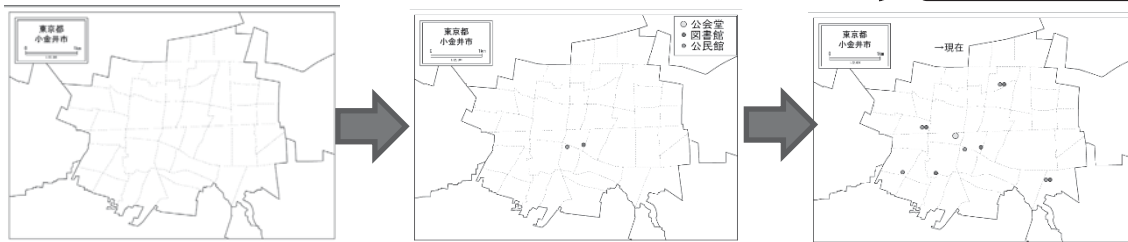
ずっと増え続けている。昭和30年頃すごく増えている。

駅ができると、人口も増えている。

資料 鉄道路線図の推移



資料 公共施設（小学校・図書館・公会堂）の推移（透明シートに印刷し重ねて使用）

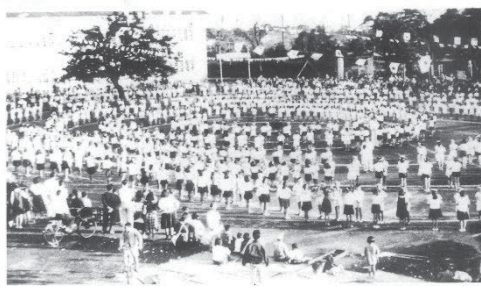


学校も増えている

資料 昭和中ごろ（急激に人口が増えたころ）の写真



武蔵小金井駅 (S38)



第一小学校の運動会 (S26)



最後の頃の田植え (S45)

人口が増えると、駅も学校もぎゅうぎゅうだ。

第14・15時の資料（まとめる）

◆私たちのすむ小金井市のまちや人々のくらしは、どのように変わってきたのだろう。

【指導上の留意点】これまでまとめてきた年表から、学習問題に対する考えをまとめられるようにする。

人口が増え、鉄道の駅や公共施設もできて便利になってきている。これからもよい街になっていくと思う。

資料
まとめた年表と人口推移グラフ



小単元名	杉並区のうつりかわり	配当17時間	内容(4)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

杉並区の様子の変り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、区や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基にこれからの区の発展のために地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いなどについて、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、区や人々の生活の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、区や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたこと理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見出し、区や人々の生活の様子について考え、表現している。 ②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化したこと、土地利用の様子や生活の道具が変わってきたことなどを相互に関連付けたり、区の様子の変化と生活の様子の変化を結び付けたりして、区や人々の生活の様子の変化を考え、適切に表現している。	① 区の様子の変り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習してきたことを基に地域社会の一員として、区の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(4)「市の様子の変り変わり」に関する内容で構成した単元である。事例としては、杉並区の様子の変化を交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して調べていく。
- ②内容の取扱い(3)のイに示された「『人口』を取り上げる際には、少子高齢化、国際化などに触れ、これからの市の発展について考えることができるよう配慮すること」については、単元終末の「いかす」段階で、児童が区民として杉並区の発展に関心を持ち、区の将来について考えたり討論したりすることができるようにしている。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元は、区や人々の生活の様子の変り変りを理解することがポイントである。そのため、小単元を通して時期や時間の経過が分かる写真や地域人材を活用するなど、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的広がり、比較)を働かせて調べ考えられるようにしている。
- ②本教材では「いかす」段階を設け、着目してきた視点や少子高齢化、国際化等の視点から区の発展を考えられるよう、様々な言語による区のご案内図を見せ、多くの国の人が杉並区に住んでいることをつかめるようにしている。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①導入では、第1単元「身近な地域や市の様子」で学んだことや作成した白地図も活用し、時間の経過に伴い、変化してきたことに気付くようにしている。
- ②「調べる」段階では、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具など移り変りを、人口が増加した「関東大震災のころ」「東京オリンピックのころ」、そして「今」という3つの時代について調べることで、区や人々の生活の様子の変化について考えることができるようにしている。
- ③「いかす」段階では、「区民の一員」として杉並区よりよい未来を考え、意見を交流する場を設けた。資料として「杉並区基本構想(10年プラン)」や「すぎなみ小・中学生未来サミット」を参考に提示した。

3 小単元の指導計画と評価計画 (17時間扱い)

過程	ねらい ○数字は第○時を表す	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つ か む	①昔と今の杉並区 の土地利用に着 目することで、区 の移り変わりに 関心をもち、学習 問題を見出す。	○昔と今の杉並区の地図を見て気付いたことを発表す る。 ◆昔の杉並区はどんな様子だったのだろう。 ○昔と今の地図を比較し、学習問題を見出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">田畑ばかりだった杉並区は、どのように変わってきたのだろう。</div>	◎昔の杉並区の地図 ◎今の杉並区の地図 □第1単元との関連を図る。 【思①】
	②学習問題に対す る予想や学習計 画を立て、見通し をもつ。	○前時の資料を基に、学習問題に対する予想を話し合 い、学習計画を立てる。 [予想]・家が増えたからではないかな。 ・交通が発達したからではないかな。 [計画]・交通 ・公共施設 ・土地利用 ・人口 ・生活の道具	□前時の資料を基に調べる視点 を明確にしていく。 【態①】
調 べ る	③④杉並区の人口 について調べ、理 解する。	◆杉並区の人口はいつから増えたのだろう。 ○人口推移のグラフ、学校の児童数の推移のグラフと年 表からいつの時代に増えたのか読み取り、話し合う。 ・「関東大震災のころ」「東京オリンピックのころ」「今」	◎杉並区の人口推移のグラフ ◎杉並の時事年表 ◎学校の児童数の推移のグラフ 【知①】
	⑤⑥⑦⑧ 3つの時 代における土地 利用、交通網の広 がり、公共施設の 建設など変化に ついて理解する。	◆土地利用はどのように変わってきたのだろう。 ○田畑や駅の周りがどのように変化してきたか調べ、 話し合う。 ・駅の周りから家が増え、畑が減っている。 ◆交通はどのように広がっていったのだろう。 ○交通網の変化と住宅の数の変化を比べる。 ◆公共施設はどのように変わってきたのだろう。 ○どのような施設がどの時期に建てられたか調べ、話 し合う。	◎3つ時代の航空・風景写真 ◎商店の数、田畑の数の統計 ◎路線、道路地図 ◎住宅数の推移の表 □公共施設は、区が税金を集め 区民のために設置しているこ とについて触れる。 ◎公共施設の年表、区民広報誌 【知①】【思①】
	⑨⑩⑪⑫⑬ 3つの 時代における生 活の道具の変化 について理解す る。	◆3つの時代で人々はどのような生活をしていて、ど のように変わってきたのだろう。 ○郷土資料館への見学計画と立て、話し合う。 ○郷土資料館へ見学に行き、学芸員の方の話を聞く。 ○郷土資料館にある古民家で火吹き体験をする。 ○炊事の仕方の変化などを通して、3つの時代の生活 の変化について、まとめる。	◎汽車と電車の写真 ◎杉並区的生活道具の展示 ◎古民家と火吹き体験 □炊事の仕方を例に挙げ道具の 変化によってどのように生活 が変わったかを捉えさせる。 【知①】
ま と め る	⑭⑮年表に表現し、 学習問題に対す る自分の考えを まとめ、発表す る。	○調べてきた事項を1枚の年表にまとめる。 ○年表から学習問題に対する自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">・杉並区は、関東大震災後から人口が増え、交通や土地の使われ方が変わってきた。その後東京オリンピックのころから、公共施設も増え、電化製品が多くなり、生活の様子も大きく変化した。</div>	□区の変化と生活を関連付けな がらまとめさせる。 □年表を作成する際は元号を用 いる。 【知②】【思②】
い か す	⑯⑰これからの杉 並区 発展に 関心をもち、自分 なりに考える。	◆これからの杉並区はどのようにになるとよいだろう。 ○なぜ区役所の受付に様々な言語で書かれた案内板が あるか考える。 ○杉並区のよりよい未来について話し合い、意見を発 表する。	◎様々な言語で書かれた案内図 ◎杉並区基本構想(10年プラン) □少子高齢化や外国人居住者が 増えてきたことに触れる。 【態②】

第1・2時の資料(つかむ)

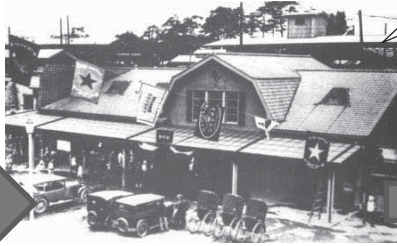
時期による違いに着目する。

◆今と昔の中野区は、どんなところが違うのだろう。

資料 駅舎・商店街・役場の昔と今(写真)

建物も乗り物も様子がずいぶん違うね。

中野駅



中野駅前の商店街
(サンモール)



何年くらい前の写真だろう。



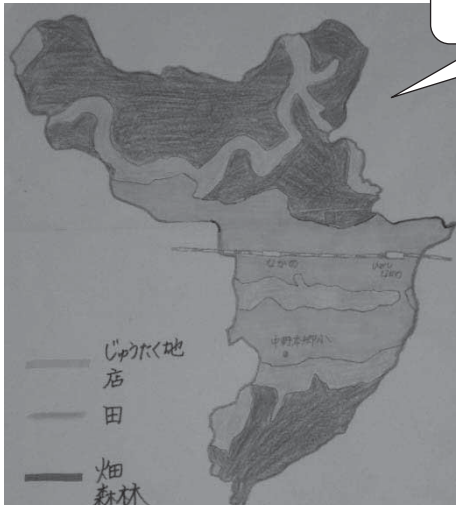
中野町役場・野方町役場
↓中野区役所



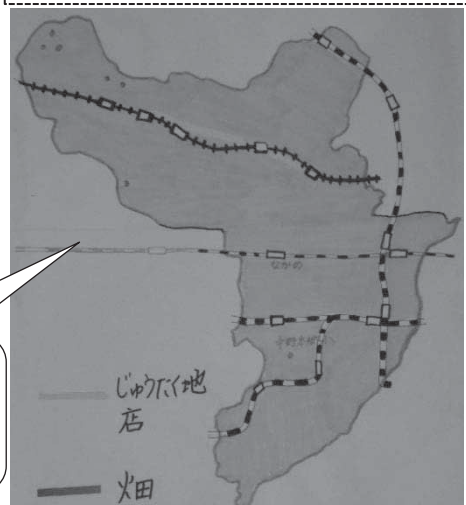
資料 土地利用の変化

昔は田や畑がたくさんあったんだ。

【指導上の留意点】比較するにあたっては、交通や公共施設、土地利用など第1単元との関連を図るようにする。



どんなふうにして、こんなに変わっていったのだろう。



【学習問題】

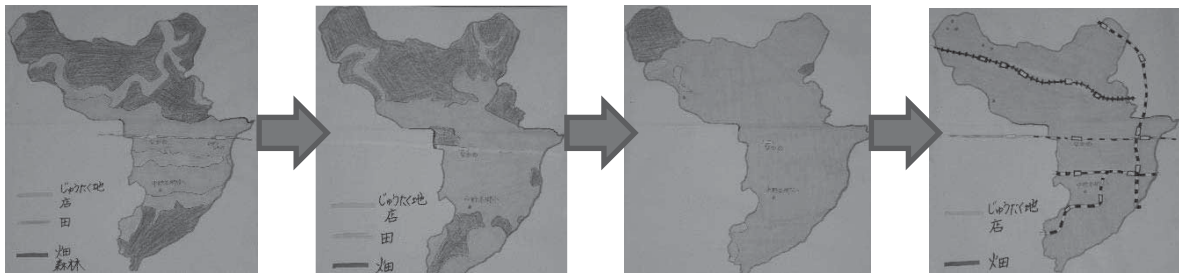
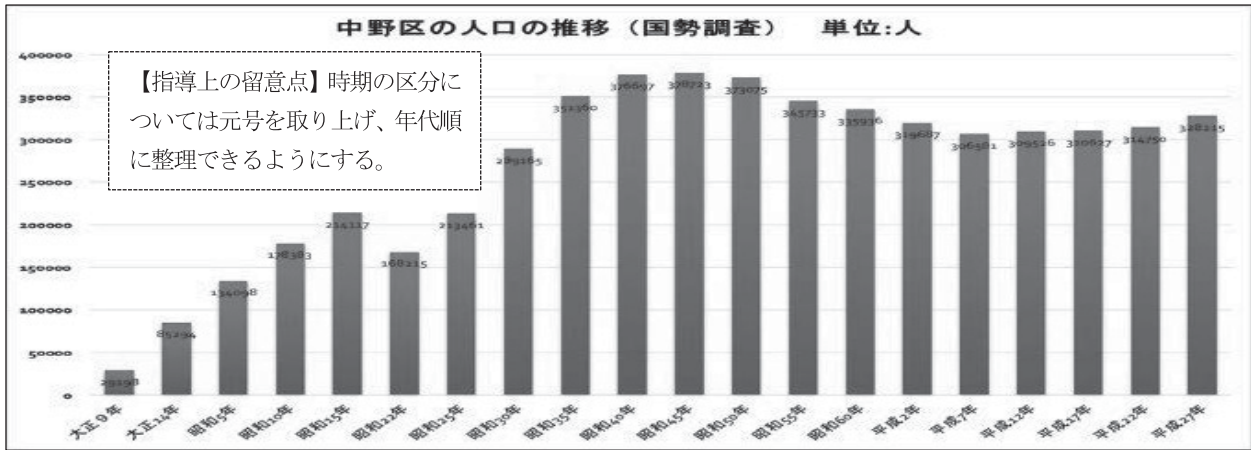
私たちの住む中野区の様子は、どのように変わってきたのだろう。

第4・5時の資料（調べる）

◆人口や土地の使われ方は、どのように変わってきたのだろう。

人口の変化と土地利用の移り変わりの関連に着目する。

資料 人口の変化 土地利用の移り変わり



大正のころ

昭和の初めころ

昭和30年ころ

平成のころ

第8・9・10時の資料（調べる）

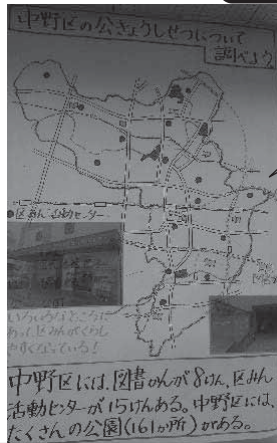
◆どのような公共施設が建てられてきたのだろう。

公共施設と人口の関連に着目する。

資料 公共施設の分布(第1単元)
区役所で働く人の話

区役所の人の話

中野区には、公共施設がたくさんあります。昭和のはじめごろには少なかったのですが、人口がふえてきて必要になりました。つくるときには、たくさんのお金がかかります。みなさんがはらっている税金をつかっています。人口がふえると税金もふえるので、公共施設もたくさんつくれるのです。



公共施設はだんだん増えて、今のようになんかたくさんになったね。

みんなが使うものだから、人口の変化と関係があるんだね。

税金が使われているから、人口が増えたら公共施設も増えるんだ。

第16・17時の資料（いかす）

◆これからの中野区は、どのようになるといいのだろう。

資料

中野区歌「未来カレンダー」
中野区基本構想

だれもが住みやすい中野区にするために、自分たちができることを考えよう。

商店街がある
元気いっぱいなまち

- ・商店街を大きくする。
- ・外国の文化も取り入れる。

地域の人の繋がりを
大切にすなまち

- ・人にあいさつをする。
- ・イベントをふやし参加する。

緑がいっぱいあって
環境に優しいまち

- ・畑や公園をふやす。
- ・ポイ捨てをへらす。

公共施設が整った
公平なまち

- ・公園をふやす。
- ・住宅も緑もふやす。

ずっと住み続けられる
魅力的な町

- ・お店をふやしてまちを元気に。
- ・病院をふやして安心に。

災害への備えが進んだ
安心なまち

- ・逃げられる公園や畑をふやす。
- ・近所で仲良く助け合う。

